

第1学年 生活科学習指導案

日 時 平成24年10月17日(水)

児 童 男子19名 女子10名 計29名

指導者 高橋 雅美

場 所 体育館

1 単元名 一緒に あそぼう

2 単元を展開するにあたって

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊ばしに使う物を工夫して作り、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流できるようにする。」を受けて設定したものである。

本単元は、創意工夫しながらおもちゃを作る活動を通して、友だちとのよりよい関わりについて気付くことをねらいとしている。また、科学的な考え方の素地を養う部分と社会的な考え方の素地を養う部分が含まれた単元であり、友だちと関わることで自分の良さや友だちの良さを発見したり、身近な物を利用して創作したりする中で自然の力を体全体で感じ取ることができるようになることを考える。

それとともに、自分たちが作り実際に体験した遊び道具を幼稚園の年長児(以下、年長児とする。)に紹介する活動の中で、楽しみながら人と関わらせたり自分の役割をやり通す責任感・満足感に気付かせたりすることで、自立への基礎を養うことができる単元である。

この単元の学習を通して、試行錯誤を繰り返しながら制作活動に没頭することや自分の考えを発信したり友だちと思いを共有したりすることの楽しさを経験させることができる。そして、年長児への関わり方を考えさせることで、相手意識を持って適切に人と接することの大切さにも気付かせることができることを考える。

(2) 児童の実態

入学して7カ月が過ぎ、子どもたちは学校生活にも慣れ、明るくどの活動にも意欲的に取り組んでいる。

これまで児童は、「はるとともだち」「おおきくなあれ」「なつともだち」の単元や中休み・昼休みなどの外遊びを通して主に自然と関わってきた。校庭探検を通して永井小学校近辺で育つ草花や樹木を見て回ったり、アサガオの種をまき発芽や開花を見守ってきたりした。夏にはさまざまな水遊びを体験し、休み時間にはアリやダンゴムシの観察をしたり、すぐそばの健康の森で体を使った大きな遊びを楽しんだりしてきた。

しかしながら、これまでの学習では自分の興味・関心にこだわって取り組む活動が優先で、目標を持って人と協力して作業に取り組む活動とはなっていない。また、遊び道具といえば既製品のおもちゃであり、自分たちで遊びを考えたり手作りのおもちゃで遊ぶことはほとんどない。

自分の思いを伝え合う活動としては、国語や算数でのペア学習や発表、「生活科カード」を使っただけの発表会などを経験している。絵や文での表現についても、自分の思いを話す力についても個人差は大きい。

また、「お世話してもらおう」「教えてもらおう」という意識がまだ強く、大人の指示を待っていたり反対に自分本位の考えや行動をとったりする面も多々見られる。

(3) 指導にあたって

本校では長年に渡っていずみの森幼稚園と交流をしてきている。昨年度も年長児は永井小学校の1年生に招待され、一緒に遊んでいる。

そこで〈であう〉段階では、おもちゃ作りや遊びに関する本を提示し、年長児と遊ぶことへの期待感を持たせ、どんなことをして遊んだら楽しんでもらえるかというイメージをつかませたい。

〈かかわる〉段階では、動力となるゴムや磁石、風などの素材で遊ぶ活動を通して、そこでの気付きを生かしたおもちゃ作りへの意識を持たせる。同じ目的を持つグループを作り、材料を集めたり作り方を考えたりする中で、自分の思いを発信すること・友だちと情報を交換することで遊びの楽しさがますます深まることを味わわせたい。自分たちが作ったおもちゃで試しに遊んだり、もっと良くするための工夫を考えたりする場面も設定する。グループの中での協力体制が育まれるような声がけもしていきたい。

〈深める〉段階では、自分たちで作った遊びの楽しさを年長児へ伝える活動を通して、人と関わることの楽しさに気付かせ、多くの人と交流していこうとする態度を育成したい。そして、相手を意識しながら関わることの大切さや自分の思いを表現する喜びをみんなで共有できるようにしたい。

3 単元の目標

単元目標	身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、そのおもしろさや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
評価規準	<p>【関心・意欲・態度】 おもちゃを作ったり遊び方を工夫したりしながら楽しく過ごそうとしている。</p> <p>【思考・表現】 自分なりに工夫しながらおもちゃを作ったり、友だちとのより良い遊び方を考えたりする。</p> <p>【気付き】 おもちゃ作りや遊びを通して、自分の良さや友だちの良さに気付く。</p>

4 単元計画と評価規準 12時間

段階	活動名	時間	主な学習活動（・）	具体的評価規準（・）と評価方法【 】	教師の主な支援
であう	みつけよう たのしいおもちゃ	2	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を見たり教師が作ったおもちゃで遊び、作りたい物を考える。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> さかなつり わなげ 風ぐるま ボーリング パラシュート など </div> <ul style="list-style-type: none"> みんなでしてみたいことを話し合い、活動の見通しを立てる。 	見本のおもちゃで遊びながら、作りたい物を考えたり、活動への見通しを持ったりしている。 【関→活動の観察・発表】	教師が作ったおもちゃを見せ、意欲づけを図る。

か か わ る	おもちゃを つくろう	4	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを作り、作るものや材料を考える。 ・材料を集めておもちゃを作る。 	<p>風や磁石、ゴムで遊んでみて、動力の生かし方に気付いている。</p> <p>【気→活動の観察】</p> <p>必要な道具を準備し、試行錯誤しながらおもちゃを作っている。</p> <p>【思→活動の観察・発表・カード】</p>	<p>必要な材料や用具、児童が考えたことを記録できる計画書を準備しておく。</p> <p>似た種類のおもちゃや動力が同じなど、話し合いができるグループになるように働きかける。</p>
	おもちゃで あそぼう	2	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったもので遊び、感じたことを発表する。 	<p>作ったおもちゃで、やり方を教え合いながら楽しく遊んでいる。</p> <p>【関→活動の観察・発表】</p> <p>楽しかったおもちゃや遊びを、友だちに伝えようとしている。</p> <p>【思→発表】</p>	<p>友だちが作ったおもちゃで遊ぶ際、もっと良くなるためにどうしたらいいかという視点を与える。</p>
	おもちゃを もっとよくしよう	2 (1 / 2 本 時)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにおもちゃをもっと良くするための工夫を考える。 ・手直しが終わったおもちゃでもう一度遊ぶ。 	<p>友だちの意見を参考に、作った物を手直しする。</p> <p>【気→活動の観察・発表】</p> <p>手直してよくなった点を発表している。【表→発表】</p> <p>以前と比べて、友だちのおもちゃの良くなった点に気付いている。</p> <p>【気→活動の観察・発表】</p>	<p>おもちゃがより良くなる視点を、具体的に示す。</p> <p>工夫の仕方が分からない子には、個々に支援する。</p>
ふ か め る	いっしょに あそぼう	2	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児を「おもちゃランド」に招待して、交流する。 ・活動を振り返り、楽しかったことやうれしかったことを絵や文で表す。 	<p>招待した人に楽しんでもらえる方法を考えている。</p> <p>【思→活動の観察】</p> <p>招待した人に楽しんでもらうためには、適切な関わり方があることに気付いている。</p> <p>【気→活動の観察・カード】</p>	<p>場の設定に配慮し、どの子も遊びの説明ができるように声がけをする。</p> <p>最後の片付けまで、しっかりグループで取り組めるように声がけをする。</p>

5 本時の学習活動（9 / 12）

（1）本時の活動と子ども

- ・本時は、これまでの活動で作ったおもちゃをもっと楽しいものにするために、子どもたちがアイデアを発信・交流する学習活動である。子どもたちは、グループの児童と互いにアドバイスをしながら改良していく流れの中で、一緒に考えて作り上げていく遊びの楽しさに共感し合う。
本時は、発表→話し合い→改良制作の流れとする。
- ・改良の視点を、児童にとって分かりやすく「①じょうぶ②はやく③おもしろく④きれい」として提示し、どのように手直しか具体的に考えさせる。
- ・制作中の子どもたちのつぶやきを教師ができるだけ拾い、言語化して学級全体へと広げていきたい。

（2）目標

- ・おもちゃをより楽しく遊べるようにするために、どうしたらよいか考えようとする。
【関心・意欲・態度】
- ・おもちゃをより楽しく遊べるように工夫することができる。【思考・表現】
- ・おもちゃをより楽しく遊べるための改良点に気付く。【気付き】

（3）仮説との関わりから

友だちとの交流で生まれた考えや工夫したところをはっきり自覚できるように、気付いたことを表現できるカードを用いて、自分なりの言葉や図で書き表す力をつけさせたい。（手立て1）

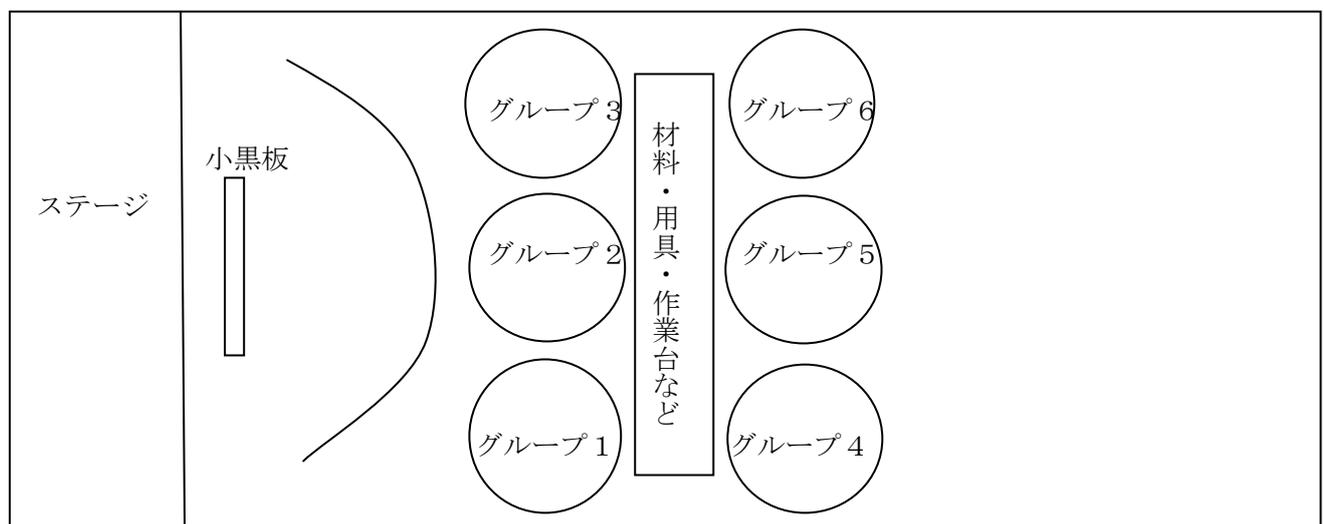
自分たちの活動への意欲付けを図り、友だちと考えを交流していく言語活動を工夫することによって、どの子にもはっきりとした思い・課題意識を持たせるようにする。（手立て2）

（4）展開・評価規準

段階	学 習 活 動	準備資料	教師の支援（・）と評価（○）
つ か む	1 前時までの活動をふり返る。	・おもちゃ遊びの写真 (小黒板に掲示)	・小黒板に貼った写真を見せ、前時までの活動を思い出させる。 ・手直しする時の視点①じょうぶ②はやく③おもしろく④きれいを掲示しておき、本時の活動への意欲づけを図る。
	2 本時の学習内容を知る。		
3 分	かだい おもちゃをへんしんさせよう。		

<p>広 げ る</p> <p>3 9 分</p>	<p>3 順番に、これから直すところを 発表する。 (グループごとに)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物を使って、見ている人にわかりやすく発表する。 <p>4 実際に、グループで話し合いながら手直し作業をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つけたしたり丈夫にしたりして、それぞれの作業をする。 ・遊びながら手直し部分を確認していくようにする。 <p>5 手直しをして、よくなったところを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変身の前後を比較して、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃやさんカード (No.2) ・作業に必要な道具、材料など ・おもちゃやさんカード (No.2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの中から代表者に、自分たちのおもちゃの改良点について発表させる。 (発表の手順や話型について教える。) ○おもちゃをもっと良くしようとしている。【関→活動の観察】 ・活動中の子どもの気づきの交流が図られるように、教師が気づき・つぶやきを広めていく。 ○おもちゃを改良するための工夫を考えて作業している。 【思→活動の観察】 ○手直ししてよくなった点に気付いている。 【気→発表・カード】
<p>ま と め る</p> <p>3 分</p>	<p>6 本時の学習の感想を発表し、学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表する。 ・次時の内容を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの工夫をすることにより、さらに楽しく遊べるようになったことに気付かせ、次時にはもう一度みんなで遊び、よくなったところを見せ合うことを知らせる。

場の設定 (体育館)



おもちゃやさんカード①

10 がつ 10 にち ()

なまえ

***なにを つくろうかな**

***みんなで あつめるもの**

***じぶんで もってくるもの**

おもちゃやさんカード②

10 がつ にち ()

なまえ

***どう へんしんさせようかな**

・もっと

・もっと

***どこを へんしんさせようかな**

***どんなふうによくなったかな**

まえは、

こんどは、